



# 傳道所の歩み

## 聖ヶ塔伝道所

波江 詒 三

聖ヶ塔伝道所は熊本市西方金峯山の西、海に面したる位置にある。明治四十年十一月二十三日秋元茂雄先生伊東保士青年信者と徒歩にて熊本市より熊本県飽託郡河内村大字船津字聖ヶ塔八百九番地田尻鍛兄宅に御出になり、益永次一郎兄を加え牧師秋元先生の司式により同日田尻鍛兄受洗さる。同席の伊東兄益永兄秋元牧師の熱心なる祈禱ありて式を終り、河内の地聖ヶ塔に一粒の種子は播かれた。年月は過ぎ大正二年田尻鍛兄の従弟相良剛氏聖ヶ塔にて医業を開業すると同時に集會を月一回始む。此の頃を聖浜俱樂部と云つた。大正四年熊本坪井教会に牧師白井慶吉先生を御迎え致してより、毎月一回金峯山へこえて悪い三里の道をワラジをかけて當時の大島長老と御出になり、熱心に信仰の道を解き教へ導いて頂いた。又時折當時の三宅長老も御出になり熱心に聖浜俱樂部を育て、下さつた。白井先生より受洗された方は十三人。

佐藤繁彦先生村田四郎先生唐牛先生共に毎月御出頂き、此の頃は聖派教団と云つた。

松尾喜代司先生を御迎えし昭和四年七月二十八日聖ヶ塔伝道所設

## 荒尾教会の伝道

宮崎 貞子

終戦の翌年昭和二十一年十月、三十幾年振りには私は年老いた母と郷里荒尾に住むことになりました。昔私の幼い頃は祖母や伯母が信仰を持って居りましたが皆亡くなつて、今は戦時中市制が施かれたとはいへ勿論教会もなく信者の集りもない郷里のため如何にかして伝道の道が開けるようにとの祈をもつて帰つたのですが、神は己にこれに備へ給うて、翌月十一月十四日母教会美術教会の浅野順一先生が九州伝道の途次荒尾に私共母子を御訪ね下さる好機が与えられ、その時熊本坪井教会の松本治三郎先生に御出てを願ひ御兩人の先生を迎えて最初の集會を開きました。

同居の人々や旧知の人々を誘つてその日集つたものが十八名でした。これより後松本先生は遠く熊本から毎月一回、後には二回御出でいただき定例の集會を開いて下さいました。初め二年間程は集會の人数も不定で出席者は入れ代りたち代りまことに淋しい思をいたしました。二十三年のクリスマスには初穂として三名の方々が受洗せられました。二十三年のクリスマスには初穂として三名の方々が受洗せられ大きな感謝と喜びが与えられました。引きつづき毎年約三名の受洗者がありまして、昭和二十四年の春には松本先生と坪井教会の御厚意により同教会荒尾伝道所として新しい出発をいたすことが出来ました。

その後転会者受洗者を加えて会員数も二十名を越えましたので予算七十万円をもって会堂の建築を思い立ちました。このために内外

立準備委員会を開き、同年十一月十二日田尻鍛兄委員宅に於て總會を開く。佐賀教会牧師永田猪之介氏祈禱、議長永田牧師、書記田尻鍛、現任陪餐者十六名内十三名出席にて議事を終り、中会直轄聖ヶ塔伝道所設立す。委員に田尻鍛、竹下一喜、波江詒三、広田嘉太郎の四君がなり任職式を執行す。昭和五年より日曜学校を始む。校長に波江詒三氏を先生に田尻雪姉と園田八重子姉に御願ひす。日曜学校は昭和十三年迄にて閉校、この間松尾先生毎月一回木曜に御出頂き集會を開く。

昭和十五年三月二十三日田尻委員宅にて臨時總會を開き、主任者松本治三郎氏議長、田尻委員書記となる。現任陪餐者十一名中五名出席、依て議長は定数以上出席につき總會成立を宣言、宗教団体法実施せらるるに當り、この伝道所を熊本教会に合併するを便宜とし、満場異議なく可決し、鎮西中会及熊本教会へ右合併を申出す。これより熊本坪井教会の聖ヶ塔伝道所として松本先生により集會を続け、牧師田中從夫先生を御迎えし毎月第二木曜に御出頂き川下六生兄中川藤人兄波江詒三兄を中心に集會を続け、今日迄て四十五人の実を結ぶ。これは神様の御守りと諸先生方の御力と多くの信者の方々のお祈との賜と深く感謝致しています。

協力会より三十五万円の援助がありました。協力は残り三十五万円の募金は相当骨が折れました。教会員は婦人と青年のみでその上少数でありますから広く土地の人々にも援助を仰がねばなりません。或は数日間旧友を歴訪し或る時は婦人の会員四、五名が市議会の席に出かけて議員方に訴え、又小中学校の運動会その他の催しには売店を開きなどして全会員が祈をあつめ力を尽して、ようやく二年間に予定の額を与えられました。然しこの事は基督教に全く知識も理解もない荒尾の町で、多くの人々に基督教を紹介し又このために関心を得る機とせられた事は感謝でありました。

昭和二十六年四月二十六日荒尾市のや、南寄り有明海を見渡す増水の小高い丘に三十二坪余の会堂献堂式と共に第二種荒尾教会設立式を挙げる事が出来ました。又これと同時に附属幼稚園を開設致しました。これがこのような開拓伝道地に於きましては多方面の伝道が必要であると考えられ、又一方には財政の考慮もあつたわけでございます。この間川崎嗣夫牧師牧野富士男牧師の二代の先生が荒尾伝道に御尽瘁下さいましたが、今春牧野先生留學御辞任のため浜辺達男先生がそのあとを受けて伝道に當つておられます。

思えば荒尾の地にかくキリストの福音が宣べ伝えらるゝに至りましたことはまことに奇しき神の御恵という他はなく、その間松本治三郎先生の大きな御指導と坪井教会の絶えざる祈と御支援とを忘れすることは出来ませぬ。とは申せ荒尾の伝道はまだ決して容易なことではございません。農夫が堅い堅い土を耕して種子を蒔くように、農村に特有な根強いいろいろな困難を一つ一つ克服してキリストの救の聖言の宣教に当られる牧師先生とこれを援ける教会の兄弟姉妹方のために一日も祈を忘れることは出来ないと考えて居ります。